

飼料情勢

1. とうもろこしのシカゴ定期は、12月には350セント／ブッシェル台で推移していたが、米国产の大豊作が確定する一方で、エタノール向けおよび輸出需要の増加や南米産の生育悪化懸念などを材料に370セント／ブッシェル台まで上昇した。その後、南米産の豊作期待から弱含みの展開となり360セント／ブッシェル台で推移していたものの、米国中西部での降雨や気温低下により作付けが遅れるとの見方などから、現在は370セント／ブッシェル前後で推移している。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、12月には340ドル／トン台で推移していたが、多雨によるアルゼンチン産大豆の減産懸念などにより370ドル／トン台まで上昇した。その後、天候回復により減産懸念が後退したことから値下がりし、さらに3月31日に米国農務省が発表した大豆の作付け面積が市場の予想を上回ったことから軟調な展開が続く、米国中西部での降雨予報による作付け遅れの懸念から一旦は強含んだものの、米国中西部での降雨が事前予想ほどではないとの見方を背景に、現在は340ドル／トン台で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月には35ドル／トン台で推移し、年末を控えた輸送需要の集中などにより40ドル／トン前後まで上昇した。その後、需要は一服したものの、中国向け石炭などの輸送需要が引き続き好調であることなどから38ドル／トン前後で推移していたが、南米産穀物の輸送需要の本格化や堅調な原油相場を背景に40ドル／トン台を超える水準まで上昇した。4月にはいり、南米産穀物の輸送需要等が一服したことなどから弱含み、現在は38ドル／トン前後で推移している。
4. 外国為替は、11月中旬には110円台であったが、トランプ新大統領の経済政策に対する期待が高まったことや、米国の利上げ観測が高まったことなどから急激に円安がすすみ、12月中旬には一時118円台をつけた。その後、トランプ新政権の政策が不透明であることや地政学リスクなどから110円前後まで円高が進んだものの、5月に入り米国の雇用統計が堅調な内容であったことや6月利上げ観測が高まったなどから、一時円安がすすみ114円台となった。今週は、トランプ米大統領のロシアへの情報漏洩報道や米経済指標が予想を下回ったことなどから、現在は111円台で推移している。

